

9月に大谷大学で開催された日本宗教学会の第77回学術大会で、開催校特別企画のパネルに、本書の編集者であるマイケル・パイ先生は発題者として参加されていた。国際宗教学宗教学会元会長のパイ先生は、天理大学とも深い関係のあるマールブルク大学に長年勤務され、宗教学科を中心とした両校の共同研究プロジェクトの共同研究者であっただけでなく、幾度となく天理を訪問されている。現在は大谷大学に拠点を置く *The Eastern Buddhist* の編集に携わり、今回の発表はパネル「21世紀の日本仏教・仏教学と社会貢献」の中で、「学問の中からこの世に応じる仏教の声—EBの使命 Learning and mission, with special reference to *The Eastern Buddhist*」という題目で行われた。その際、先生から「*Eastern Buddhist Voices*」の第1巻である *Beyond Meditation: Expressions of Japanese Shin Buddhist Spirituality* (2011年) をいただいた。本書はこのシリーズの第5巻にあたる。

第1巻のはしがきによれば、The Eastern Buddhist Society は、1921年、京都の指導的な仏教者のグループによって創設され、その機関誌として *The Eastern Buddhist* が刊行されていた。グループの中心には鈴木大拙や佐々木月樵、赤沼智善、山辺習学 (*The Eastern Buddhist* 第1号の執筆者でもある) がいた。本シリーズは、学問がもつ使命を世に開き、世の中に応える学問の構築を目指したと考えられるこの“動き”を、「*Eastern Buddhist Voices*」という形に編纂しなおし、現代という時代に再提示しているように思われる。たとえば、西欧に広く知られている“仏教は褐色の衣を着た僧侶たちの宗教で、彼らは出家し、悟りと寂靜を求めて修行する”“在家信者は彼らから仏施を得る”という理解は、日本の仏教に当てはまるというわけではない。こうした違いを伝えられてきたテキストによって理解することは、東アジアや日本に定着した仏教を理解するのに有効であり、さらには、どのように学問 (learning) がかわり、どのような使命 (mission) を果たしていったのかを考察すれば、伝道 (missionary) という宗教の営みを考えるための手助けとなるのではないか。

本書の目次は以下の通り。

1 Introduction

Part I The Teaching of Vimalakīrti

2 Vimalakīrti's Discourse on Emancipation

Introduced and Translated by Izumi Hōkai

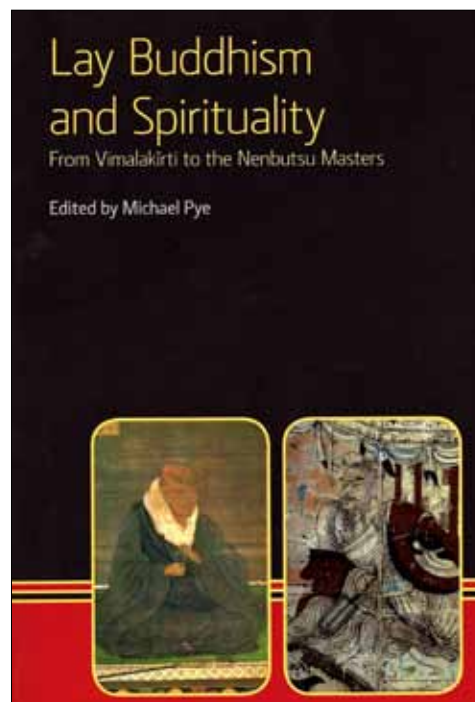
Part II Related Strands in Early Mahāyāna Buddhism

3 Shaku Hannyā; The Heart Sūtra (*Prajñā-pāramitā-hṛdaya-sūtra*)

4 Translated by Yamaguchi Susumu; Nāgārjuna's Mahāyāna-vimśaka

5 Beatrice Lane Suzuki; Outline of the *Avatamsaka Sūtra* (*Kegonkyō*)

6 The Hymn on the Life and Vows of Samantabhadra
Translated by Izumi Hōkei



Part III Hints of Laity in the Esoteric Tradition

7 Beatrice Lane Suzuki; Fudō the Immovable

8 Beatrice Lane Suzuki; Ceremonies for Disciples on Mount Kōya

Part IV Revisiting Masters of the Nenbutsu

9 Sugihira Shizutoshi; The Pure Land Doctrine in Shōkū's "Plane Wood" Nenbutsu

10 Bandō Shōjun; Myōe's Critique of Hōnen

11 Yanagi Sōetsu; Ippen Shōnin and the Nenbutsu

12 Beatrice Lane Suzuki; Shinran and his Song on Amida Buddha

13 Kakunyo Shōnin; On Steadfast Holding to the Name

14 Kaneko Daiei; Rennyō the Restorer

15 Satō Taira; Asahara Saichi the Myōkōin

16 Dan Bornstein; The Rite of Reception into Jōdo Shinshū

なお、巻末には、中国語仏典に相当するサンスクリット語およびパーリ語のテキストの一覧や関連する歴史的人物一覧、出典についての情報が載せられている。

また、「*Eastern Buddhist Voices*」は、ここで紹介した以外に、以下のものがすでに出版されている。

第2巻 *Listening to Shin Buddhism: Starting Points of Modern Dialogue*

第3巻 *Interactions with Japanese Buddhism: Exploration and Viewpoints in Twentieth Century Kyōto*

第4巻 Beatrice Lane Suzuki, Edited by Michael Pye; *Buddhist Temples of Kyōto and Kamakura*

第6巻 Stefania Travagnin; *Yinshun and his Exposition of Madhyamaka: New Studies of the Da Zhidu Lun in twentieth-century China and Taiwan*